

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第48週 （11月26日～12月2日）

★お知らせ

インフルエンザ予防接種について！

季節性インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年11月頃から患者が増え始め、12月から3月頃にかけて流行します。インフルエンザワクチンは、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。ワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、およそ2週間かかると言われています。かかりつけ医等医療機関にご相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討ください。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第47週の3.10から第48週は3.17と横ばいです。県全域から報告があり、高知市、中央西で減少していますが、須崎、安芸、中央東で増加しています。

学校欠席者・感染症情報システム※でも8例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルスやロタウイルスとアデノウイルス共に陽性(臨床診断名は腸重積)などウイルスを原因とする胃腸炎各1例や、病原性大腸菌、カンピロバクター属菌、サルモネラ属菌等細菌を原因とする胃腸炎5例の報告があります。

病原体検出情報では臨床診断名「感染性胃腸炎」から Sapovirus genogroup unknown が2例、Coxsackievirus A4 が1例、また、臨床診断名「無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎」から Human herpes virus 7 が1例検出されています。

感染性胃腸炎は年間を通じて発生していますが、特に冬季にはノロウイルス等ウイルスによる胃腸炎の流行がみられます。特に、ノロウイルスは感染力が強く、少量のウイルスでも感染するため、保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

<予防方法> 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第47週の1.10から第48週は1.50と増加しています。幡多で急減していますが、中央東、中央西で急増、高知市で増加しています。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも溶連菌感染症17例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、溶連菌感染症が5例報告されています。

この病気は、高熱・咽頭痛・おう吐を主症状とする細菌性の感染症で、熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌・全身に発赤が広がる猩紅熱といわれる全身症状を呈します。また、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの合併症を起こすこともあります。

<予防方法> 人から人への飛沫感染・接触感染が主です

人と接触する機会が増える時期に感染が起こりやすく、家庭や学校など集団での感染も多くみられます。うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○咽頭結膜熱に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第47週の0.13から第48週には0.27と急増しています。高知市で減少していますが、須崎、幡多で急増し、特に須崎では注意報値を超えています。

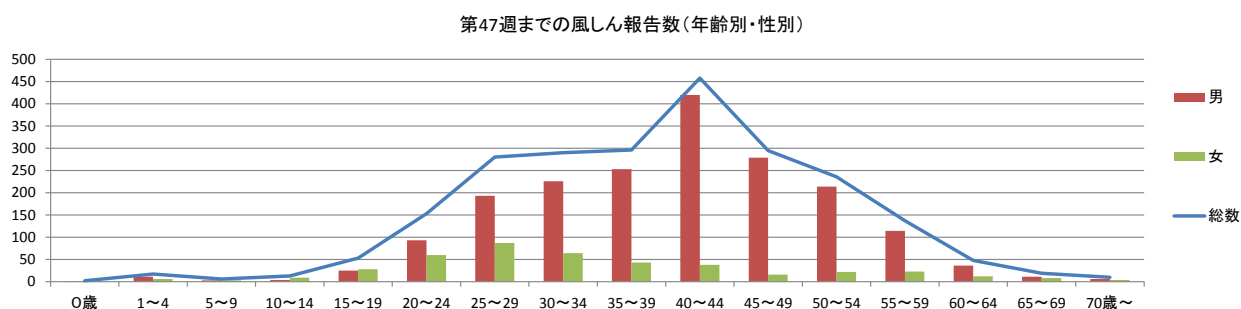
定点医療機関からのホット情報では、アデノウイルスによる扁桃炎や咽頭炎が8例報告されています。

<予防方法> これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。また、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けるなどして、感染予防に努めてください。

○風しんの届出数が多い状態が続いています

関東地方を中心に風しんの報告が多い状態が続いています。高知県では2015（平成27）年から患者報告がありませんでしたが、2018（平成30）年11月30日（金）に高知市保健所管内で風しん患者が確認されています。全国の患者数2,313人（第47週まで）のうち96%（2,222人）が成人で、30歳から50歳代の男性を中心に男性が女性の4.5倍多くなっています（男性1,889人、女性424人）。



報告数の多い都道府県は、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県以外に大阪府、福岡県、茨城県、兵庫県、静岡県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、高知県でも感染が拡大する可能性がありますので注意してください。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ

感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染

潜 伏 期 間 : 2~3週間程度

感染性のある期間: 発疹のでる7日前から発疹出現後7日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1歳児、小学校入学前1年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠20週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りにいる方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成30年8月17日付け30高健対第859号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行うので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

衛研ニュース第20号（高知県衛生研究所）30~50歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム



☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

【日本紅斑熱・SFTS】

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かい春から秋にかけて盛んに活動し、この期間に多くの患者発生がみられますが、冬でも発生例が報告されています。これから寒い季節となりますが、屋外で活動される場合はマダニ対策を心がけましょう（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

【つつが虫病】

「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

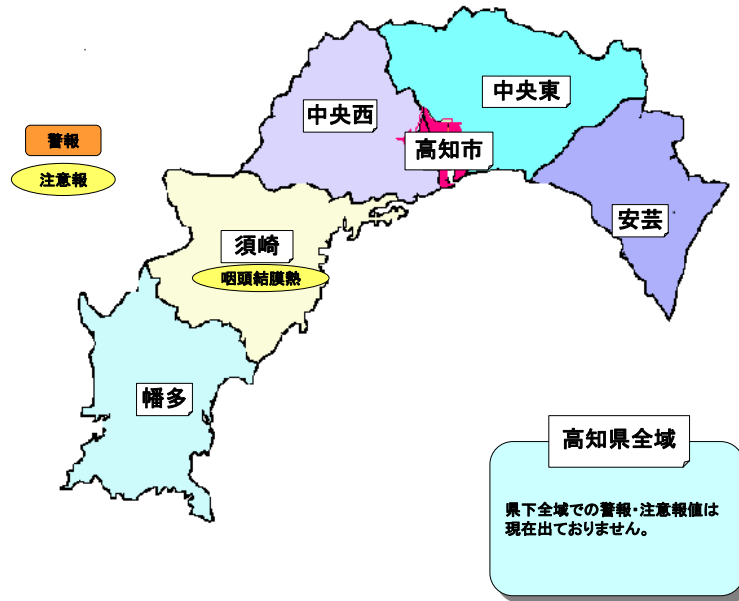
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり 報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	3. 1 7	高知市、中央西で減少していますが、須崎、安芸、中央東で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	↗	1. 5 0	幡多で急減していますが、中央東、中央西で急増、県全域、高知市で増加しています。
手足口病	→	0. 6 7	中央西で急減、高知市で減少していますが、中央東で増加しています。
RS ウイルス感染症	↗	0. 4 0	安芸で急減していますが、中央西で急増、県全域、高知市で増加しています。
突発性発疹	↗	0. 4 0	中央東で急減していますが、安芸、中央西、須崎で急増、県全域、高知市で増加しています。

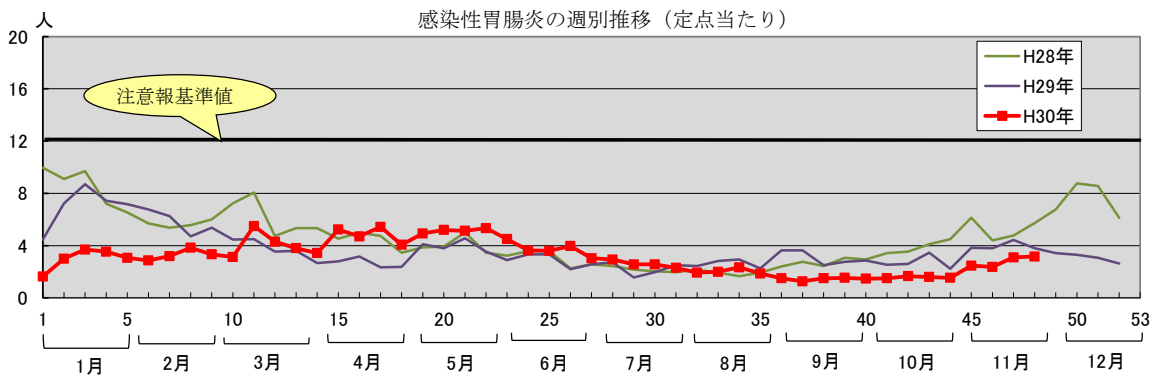
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

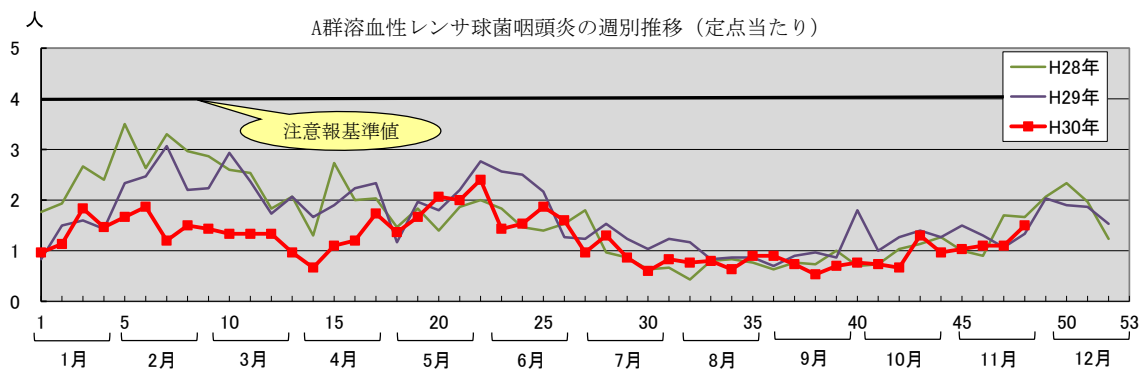
○感染性胃腸炎 第48週：3.17（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.17（前週：3.10）と横ばいです。高知市 2.64（前週：3.55）中央西 2.00（前週：3.00）で減少していますが、須崎 6.00（前週：3.50）安芸 5.50（前週：4.50）中央東 2.86（前週：2.00）で増加しています。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第48週：1.50（注意報値：4.00 警報値：8.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.50（前週：1.10）と増加しています。幡多 0.00（前週：0.20）で急減していますが、中央東 0.86（前週：0.14）中央西 0.67（前週：0.00）で急増、高知市 3.09（前週：2.55）で増加しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
48	無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎	39℃,下痢,腹痛,	15	男	高知市	Human herpes virus 7
48	川崎病疑い	39℃,発疹,	1	女	中央東	Human herpes virus 7
48	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	3	男	須崎	Sapovirus genogroup unknown

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
46	突発性発しん	40℃,下痢,	1	男	高知市	Adenovirus 2
47	伝染性紅斑、りんご病	38℃,上気道炎,	7	男	高知市	human parvovirus B19
47	手足口病	40℃,上気道炎,	1	男	高知市	Coxsackievirus A4
47	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	1	女	須崎	Coxsackievirus A4
47	不明発疹症	38℃,発疹,	1	女	須崎	Cytomegalovirus
47	川崎病	39℃,上気道炎,	4ヶ月	男	中央東	Rhinovirus
47	不明発疹症	40℃,発疹,	2	女	須崎	Rhinovirus
47	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	1	女	須崎	Sapovirus genogroup unknown

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
5類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	7	70歳代 女	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	アデノウイルス扁桃炎 1例 (2歳女) マイコプラズマ肺炎 1例 (5歳男)
中央東	おひさまこどもクリニック	hMPV 感染 1例 (1歳女)
	高知大学医学部附属病院小児科	腸重積 1例 (9ヶ月女:便はロタ、アデノ共に陽性)
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 2例 (0歳、1歳) カンピロバクター腸炎 1例 (11歳) 病原性大腸菌 O-1 腸炎 1例 (12歳)
	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 3例 (1ヶ月男、4ヶ月男、9ヶ月男) ヒトメタニューモウイルス 1例 (9ヶ月男) 病原性大腸菌 1例 (1歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑 2例 (2歳女、10歳女) 溶連菌感染症 5例 インフルエンザ 2例 (16歳男女:A型) 手足口病 3例
中央西	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 2例 (11ヶ月女、3歳男) 帯状疱疹 1例 (7歳女)
	くぼたこどもクリニック	水痘 1例 (6歳女:ワクチン1回済み、仁淀川町) アデノウイルス扁桃炎 3例 (1歳男2人、1歳女) 口唇ヘルペス 1例 (10歳男)
須 崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎 4例 (同一保育所) 感染性胃腸炎 サルモネラ O-9 2例 (同一保育所) ノロウイルス 1例 (1歳)
幡 多	さたけ小児科	水痘 3例 (4歳男、5歳男:ワクチン2回接種済み、 4歳男:ワクチン1回接種済み) h-MPV 1例 (9ヶ月男)

★全国情報

第46号（11月12日～11月18日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核357例

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症34例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎7例、A型肝炎12例、つつが虫病33例、デング熱2例、日本紅斑熱3例
レジオネラ症18例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症43例
急性弛緩性麻痺4例、急性脳炎9例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例、後天性免疫不全症候群15例、ジアルジア症1例、
侵襲性インフルエンザ菌感染症3例、侵襲性肺炎球菌感染症46例、
水痘（入院例に限る）9例、梅毒87例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風2例、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳290例、風しん123例、麻しん4例

報告遅れ：E型肝炎1例、回帰熱1例、つつが虫病6例、レジオネラ症5例

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症35例、急性脳炎5例、

劇症型溶血性レンサ球菌感染症8例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘（入院例に限る）5例

梅毒54例、播種性クリプトコックス症1例、破傷風3例、百日咳126例、風しん34例、

麻しん1例

★ 後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）及び梅毒の届出基準・様式の変更について

<各医療機関管理者の皆様へ>

平成31年1月1日より、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則第4条第6項の規定に基づき厚生労働大臣が定める5類感染症及び事項の一部を改正する件にともない、5類感染症の①後天性免疫不全症候群②梅毒の届出基準・様式が変更になります。

【改正の概要】

① 後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）について

後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）発生届の様式に「診断時のCD陽性Tリンパ球数（CD4値）」を記載項目として追加。

② 梅毒について

感染症法施行規則第4条第6項の規定に基づき厚生労働大臣が定める5類感染症として追加され、また、厚生労働大臣が定める事項として「妊娠の有無」が追加されたことを受け、梅毒発生届の様式に、「性風俗の従事歴・利用歴の有無」、「口腔咽頭病変」、「妊娠の有無」、「過去の感染歴」及び「HIV感染症の合併の有無」を記載項目として追加。

厚生労働省改正通知：<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000377884.pdf>

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第48週 平成30年11月26日(月)～平成30年12月2日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第48週							計	前週	全国(47週)	高知県(48週末累計)		全国(47週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/12/2				H30/1/1～H30/11/25			
インフルエンザ	インフルエンザ			2	6	1			1	10 (0.21)	()	2,572 (0.52)	20,907 (435.56)	1,774,013 (359.18)		
小児科	咽頭結核熱				3			3	2	8 (0.27)	4 (0.13)	1,640 (0.52)	493 (16.43)	63,478 (20.13)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6		34	2		3		45 (1.50)	33 (1.10)	7,581 (2.40)	1,751 (58.37)	313,361 (99.39)		
	感染性胃腸炎	11	20	29	6	12		17		95 (3.17)	93 (3.10)	18,951 (6.00)	4,508 (150.27)	711,674 (225.71)		
	水痘			2	1			3		6 (0.20)	6 (0.20)	1,348 (0.43)	264 (8.80)	45,669 (14.48)		
	手足口病		12		8					20 (0.67)	22 (0.73)	2,059 (0.65)	1,140 (38.00)	114,279 (36.24)		
	伝染性紅斑		3		5	1				9 (0.30)	7 (0.23)	2,070 (0.65)	173 (5.77)	35,475 (11.25)		
	突発性発疹	2			5	3		2		12 (0.40)	8 (0.27)	1,245 (0.39)	509 (16.97)	65,049 (20.63)		
	ヘルパンギーナ		1							1 (0.03)	4 (0.13)	460 (0.15)	472 (15.73)	97,997 (31.08)		
	流行性耳下腺炎				1				2	3 (0.10)	()	349 (0.11)	66 (2.20)	21,806 (6.92)		
	RSウイルス感染症		2		8	1		1		12 (0.40)	9 (0.30)	1,595 (0.50)	1,093 (36.43)	112,337 (35.63)		
眼科	急性出血性結膜炎									()	()	3 ()	()	507 (0.73)		
	流行性角結膜炎									()	4 (1.33)	569 (0.82)	110 (36.67)	27,423 (39.40)		
基幹	細菌性髄膜炎				1					1 (0.13)	()	8 (0.02)	5 (0.63)	453 (0.94)		
	無菌性髄膜炎									()	()	8 (0.02)	1 (0.13)	738 (1.54)		
	マイコプラズマ肺炎		1		3					4 (0.50)	1 (0.13)	157 (0.33)	96 (12.00)	4,718 (9.83)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									()	1 (0.13)	1 ()	20 (2.50)	134 (0.28)		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1							1 (0.13)	()	16 (0.03)	34 (4.25)	3,123 (6.51)		
	計(小児科定点当たり人数)	13 (6.50)	48 (6.47)	105 (9.01)	15 (4.86)	21 (10.50)	25 (4.93)	227 (7.25)			40,632	31,642 (784.53)	3,392,234			
前週(小児科定点当たり人数)	10 (5.00)	30 (4.29)	107 (9.17)	13 (4.33)	13 (6.50)	19 (3.80)		192 (6.19)								

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第48週							計	前週	全国(47週)	高知県(48週末累計)		全国(47週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/12/2				H30/1/1～H30/11/25			
インフルエンザ	インフルエンザ		0.18		0.38	0.20			0.13	0.21		0.52	435.56	359.18		
小児科	咽頭結核熱							0.27	1.50	0.40	0.27	0.13	0.52	16.43	20.13	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.86		3.09	0.67		1.50		1.50	1.10	2.40	58.37	99.39		
	感染性胃腸炎	5.50	2.86	2.64	2.00	6.00		3.40		3.17	3.10	6.00	150.27	225.71		
	水痘			0.18	0.33			0.60		0.20	0.20	0.43	8.80	14.48		
	手足口病		1.71		0.73					0.67	0.73	0.65	38.00	36.24		
	伝染性紅斑		0.43		0.45	0.33				0.30	0.23	0.65	5.77	11.25		
	突発性発疹	1.00			0.45	1.00		1.00		0.40	0.27	0.39	16.97	20.63		
	ヘルパンギーナ		0.14							0.03	0.13	0.15	15.73	31.08		
	流行性耳下腺炎				0.09				0.40	0.10		0.11	2.20	6.92		
	RSウイルス感染症		0.29		0.73	0.33		0.50		0.40	0.30	0.50	36.43	35.63		
眼科	急性出血性結膜炎													0.73		
	流行性角結膜炎									1.33	0.82	36.67	39.40			
基幹	細菌性髄膜炎				0.20					0.13		0.02	0.63	0.94		
	無菌性髄膜炎										0.02	0.13	1.54			
	マイコプラズマ肺炎		1.00		0.60					0.50	0.13	0.33	12.00	9.83		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)										0.13		2.50	0.28		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1.00							0.13		0.03	4.25	6.51		
計(小児科定点当たり人数)	6.50	6.47	9.01	4.86	10.50	4.93	7.25				784.53					
前週(小児科定点当たり人数)	5.00	4.29	9.17	4.33	6.50	3.80		6.19								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
 〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
 TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869
 この情報に記載のデータは2018年12月3日現在の情報により作成
 しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあ
 りますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。